



# 真言宗 豊山派 佐渡支所だより

題字 山本憲慈

第12号

平成二十八年十一月一日発行

真言宗豊山派 発行責任者 山本 憲慈  
佐渡宗務支所 編集委員長 大場 憲崇

発行所  
新潟県佐渡市赤玉六四八  
文殊院中  
真言宗豊山派佐渡宗務支所

## 報 恩 感 謝

真言宗豊山派 佐渡宗務支所 支所長 山本 憲慈

平成二十五年四月の支所長就任から、三年七ヶ月が経過いたしました。就任当初からの総本山長谷寺団体参拝計画により、予定どおり六月二十六日から二十八日の日程で、八十八名の方々からご参加いただき実施しました。

道中は和気藹々、長谷寺本堂の御本尊十一面観世音菩薩ご宝前における開帳法要厳修では、深々と頭を垂れ手を合わす参加者の姿を目の当たりにし、本山団体参拝の意義を改めて痛感させられました。

お陰さまで諸行事も残りわずかとなり、来年三月には任期四年の重責から開放されることとなります。この間、佐渡支所下寺院檀信徒の皆様には、支所運営や行事に多大なご支援とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。であります。

佐渡支所下教師(僧侶)は今後も檀信徒の皆様との関係を密にし、真言宗豊山派の布教テーマ「南無大師遍照金剛くお大師さまとともに」を念頭に活動を進めてまいりますので、引き続きお力添えいただきたくお願い申し上げます。

これより平成二十六年七月に開設しました「テレホン法話(佐渡支所下寺院住職による一ヶ月ローテーション)において、平成二十八年四月に担当した粗雑な内容のようですが、掲載させていただきます。

— 愛別離 苦 — テレホン法話(平成二十八年四月)

私が住職となって三十八年が経ちました。この間、多くのお檀家さまの大切なご家族さま、そして私自身の親族などの葬儀にかかわって参りました。それは親と子、夫と妻、ご兄弟との別れ、生後間もないお孫さんを失った方など千差万別でした。

永遠の別れに落胆と失意の中、深い悲しみの淵で涙に暮れ、天を仰ぎ、地に伏して嘆き悲しむご遺族や知人・友人らのお姿を目の当たりにし、私自身も言い知れぬ寂しさとお慰めの言葉を失くし、むなしい思いを数知れず体験をいたしました。

故人への想いが強いほど、また、大切な人であればあるほどに痛嘆は深いものではないでしょうか。今、まさに直面されている方も大勢おられることと思えます。

お釈迦さまは「人生は苦なり」とお説きになりました。つまり人生は何ひとつ思いどおりにはならないものだということです。そのひとつに「愛別離苦」という愛するものと別れる苦しみもまた、人が避けることのできない永遠の道理であると説かれます。

人として現世に生を享けることは、きわめて稀なことであり、今ここに ある命が当たり前のものではなく、やがて死に至り愛する人や大切な人、親しい人といつかは必ず別れなければならないという、誰ひとりとして否定することができない「避けがたい道理」であります。人は様々なご縁で多くの人々と素晴らしい出会いがあり、ともに学び助け合い人生は豊かなものとなります。

しかし出会いはずいぶん訪れる別れを前提として存在しているのであり、別離を必ず体験しなければならぬという、この世の苦しみを逃れることは出来ないのです。だからこそ、この「避けがたいことを避けられないこと」と気づき、いつ別れがきても悔いが残らないように別離の時までその出会いを大切に育み、積極的な生き方をされることが大事であるとお釈迦さまはお説きになりました。

私たちはこの教えを正しく理解し、身近で起きた悲しく苦しい体験を無駄にすることなく、これを乗り越えて出会いによる喜びや教訓をくれた故人に感謝の心を忘れず、生きていく意味をあらためて問い直すことが大切ではないでしょうか。心やすらかに有意義な人生を一步ずつ前に進めて参りましょう。

# 平成二十八年年度本山団体参拝無魔成満いたしました

平成二十八年年度本山団体参拝実施について

佐渡宗務支所では、六月二十六日から二十八日にわたる平成二十八年年度本山団体参拝を企画し、参加者を募集いたしましたところ予想を上回るご応募をいただきました。檀信徒七十四名、住職十四名のご参加を得て実施しました。

## ◎六月二十八日の参拝

一・早朝の出発 参加者は、佐渡汽船への迎えのバスに早起きして乗車いただき、集合時間の五時には佐渡汽船ターミナルに勢ぞろいし、出発しました。

二・當麻寺(たいまでら)参拝 大阪空港から二台のバスに乗り換え、最初の参拝寺院奈良の「當麻寺」へ向かいました。當麻寺では山内で昼食をとり、その後僧侶の説明を受けて、本堂で国宝の當麻曼荼羅(たいまんだら)や厨子を拝観し、金堂で同じく国宝の弥勒仏座像等の仏様を参拝しました。

## 三・総本山長谷寺参拝

(一)登廊(のぼりろう)登坂 長谷寺駐車場で本山職員の皆様にお迎えいただき、説明を受けながら三九九段の登廊の石段を本堂へと上がりました。

(二)本堂御開帳法要 本堂で、身の丈一〇メートル余の御本尊十一面大観音様にお参りし、御本尊のご宝前で御開帳法要に参列・焼香いたしました。支所住職は本山僧侶方と読経を勤めました。丁重な法要の中で、参加者が申し込んだ回向札や祈禱札が御本尊に読み上げられました。法要後、御本尊の御足元まで案内いただき、御み足に触れてご利益を頂戴することができました。



総本山長谷寺登廊登坂



長谷寺本堂御開帳法要



長谷寺本坊団参登嶺表彰

(三)団参登嶺表彰(ご法話(本坊)本堂から本坊まで説明を受けながら山内を案内いただき、本坊前で記念撮影を行って本坊大講堂でお茶のご接待を頂戴しました。その後本山総務執事様が入堂され、団参多数回登嶺者表彰を参加檀信徒六名に対して授与いただき、ご懇切なご法話を賜りました。

## ◎六月二十九日の参拝

一・金峰山寺(きんぷせんじ)・藏王堂参拝 桜の名所で名高い吉野山の国宝金峯山寺本堂藏王堂は、東大寺の大仏殿に次ぐ国内二番目の高さを誇る堂宇であり、国宝の秘仏・本尊金剛藏王権現御三体の前で、ホラ貝の演奏とともに説明を受けました。その後、国の重要文化財等堂内の仏様を参拝しました。

二・高野山参拝 高野山では、昼食後に奥之院参道に入り戦国大名等膨大な墓石が立ち並ぶ石畳を歩き、奥之院へ通じる御廟橋前で記念撮影を行った後、奥之院前に進んで全員で読経参拝し、お大師様への感謝の祈りを捧げ同行二人を祈念しました。

その後、総本山金剛峯寺へ向かい、荘厳な主殿や庭園を拝観し、最後に、壮大な根本大塔や金堂等数多くの堂塔が立ち並ぶ壇上伽藍を参拝しました。



當麻寺本堂に向かう



金峰山寺・藏王堂に向かう



高野山奥之院に向かう

## ◎六月三十日の帰路

午前八時、宿坊の福智院にご住職の見送りを受けて高野山を後にし、一路佐渡への帰途に着き、午後四時無事、両津港に戻りました。

## ※檀信徒総代会で本山団体参拝VTR上映

七月十六日に開催された平成二十八年年度檀信徒総代会において、ご出席の檀家総代・住職の皆様は、この度の団体参拝VTRを鑑賞いただき、次回の本山団参への参加をお願いしました。合わせて、参加者の皆様でVTRがご入り用な場合、参加住職までお申し出いただくようご案内いたしました。



## 仏教婦人会支部長就任にあたり

支所下六十番 聖徳寺寺院婦人 仏婦佐渡支部長 山岸 眞知子

平成二十八年度より仏教婦人会佐渡支部長を拝命しました。持ち回りの支部長就任で久々に会に参加しますと若い会員方が参加される一方、会員の高齢化、後継者の問題等で会員数は減少しています。それは今後の会の運営に大きな問題となっていくようです。



シニアグラスで針仕事

二十八年度の総会は六月五日に両津、ゆたかや旅館で開催、洋裁師の先生を招き手芸を習いました。常には忙しい寺院婦人方が、このようなゆったりした時間を一緒に過ごすのも良かったのではないのでしょうか。会員方は寺院婦人としてのみならず様々な資格、経験をお持ちで多彩にご活躍です。雑談の中にも沢山の学びや気付きがありました。住職の脇備えとして檀信徒の皆様には、このような何気ない学びが生きてくるのではと改めて実感しました。

## 第四十回青少年研修会を終えて・・・

支所下十八番 安養寺寺院婦人 青少年教化準指導員 源田 奈穂子

準指導員として、二年目の参加となります。私自身がお寺での経験が浅いため、子どもたちと同じ目線で共に学ばせてもらいました。

楽しい時間と心を合わせる時間を通し、初めは恥ずかしく小さかった声も次第に大きく唱えられるようになり、合わせる手も自然になっていったことが印象的でした。

親からの自立、他学年・他学校との交流、下の子を気にかける心、この二日でたくさんの方が育ったのではないのでしょうか。また、お盆近くに開催されたことで、ご先祖様、家の仏壇に対する意識も芽生えたと思います。

「また来年会おうね！」この研修会を通じて繋がりが増え、人との輪が広がっていくことを願っています。

## 「研修会に参加して」研修生作文紹介

第四十回記念、特別研修会…ではなかったですが、七月三十・三十一日、両津下久知・正覚寺道場において青少年研修会が開催されました。(参加者二十一名)研修生二人の作文を紹介します。

### ◎初めて参加して

七浦小学校三年 出崎 秋生

はじめてお寺にとまるので、きんちようしました。でも、来てみると先生たちがいろいろなことを教えてくれるのでよかったです。お経を唱えました。とても長かったです。紙芝居「こんぎつね」を先生が読んでくれました。きつねを男がころしたので、きつねがかわいそうでした。昼食の流しそうめんは、途中でそうめんが止まったところが面白かったです。まが玉作りも楽しかったです。また、来年も参加したいです。

### ☆楽しかった「まが玉」作り

河崎小学校二年 小林 清華

まず、石にまが玉の形をネームペンで書きました。うまく書けなかったのでお手本の紙をもらいました。中に丸を書きそこに穴をあけました。穴をあけると、後まで穴があきました。上から下へころころすると、こなが出てきました。そして紙やすりでいらぬ所をけずりました。その後、すこしつるつるした紙で石をつるつるにしました。さらにつるつるにしました。さいごに緑と青とオレンジの色をぬりました。緑が一番きれいでした。一ばんむずかしかった所は穴をあけると、石のいらぬ所をけずる所でした。



平成28年7月30日(土)31日(日) 両津下久知・正覚寺道場

# 寺院探訪

佐渡宗務支所下九番

陽雲山 長安寺  
よううんざん ちょうあんじ

佐渡市久知河内

住職 宮川 聴鈴



## 長安寺本堂

長安寺は、寺伝によると天長八(八三二)年、久知河内の山中に天長寺として創建された天台宗の寺院であったという。長安寺周囲の久知河内に、十二坊と云われる塔頭寺院があり、学問僧の宿舎でもあったと思われる。開基より三三七年後の仁安三(一一六八)年に真言宗として新興し長安寺と改称したが、中世の地頭時代には久知殿や潟上殿の祈願寺として庇護を受けていた。

文禄二(一一五九)年頃、長安寺は上杉景勝によって追放破却の運命となったが、慶長二(一五九七)年誓約書を入れて新穂大野の清水寺末寺となり、存続したと云われる。

長安寺には数多くの文化財が所蔵されており、明治三十九(一九〇六)年国宝指定され、戦後国の重要文化財に指定された阿弥陀如来座像と朝鮮鐘(銅鐘)、佐渡市文化財の薬師如来座像と朝鮮仏画(阿弥陀如来四大菩薩像図)が収蔵庫に保管されている。

他にも佐渡市有形文化財の仁王門と仁王像(阿形像・吽形像)があり、本堂に順徳上皇御宸筆の祈禱額レプリカ(正額は上杉景勝の菩提寺塩沢・雲洞庵に移設されている)が掲額されている。仁王像は、宝徳四(一四五二)年越後へ修理に出された記録があるが、平成二十五年に再度県内田上町の修復工房に移送して修復され、平成二十八年五月造立時の姿よみがえり、茅葺き屋根の葺き替え等改修なった仁王門に再安置されている。



長安寺仁王門

佐渡宗務支所下十四番

相栄山 大乘寺  
そうえいざん だいじょうじ

佐渡市相川下山之神町

住職 池田 英雅

慶長十七(一六一二)年開基。本尊は聖観世音菩薩、観音堂(本堂)に安置され、堂の正面両脇に仁王像、本尊の周りを囲むように西国三十三観音像が鎮座。慶安年間(一六四八〜五一)に作成された絵馬は珍しく、現在相川民俗博物館にて保管されている。あまり知られていない所では客殿(通称、本堂)に十三仏、五大明王の立体曼荼羅が安置されている。佐渡の真言宗他寺院には見受けられないと思うのだが…。

十数年前に境内にあった数十本の松の木を伐採、処分(松喰虫被害の為)。その栄養をすべて吸い取ったのか、客殿正面の梅の木が知らぬ間に巨大化。今では住職自慢の梅の木ではあるのだが、梅の実はほつたらかし、落ち葉の処分は困窮。どうせでかくなるならお賽銭が全部、五百円玉になればと思う今日この頃…。

住職は自他ともに認める独身貴族、ナイスミドルにしてハイビジュアル？朱印ガールとの出会いにそなえ、書の練習を始めるも誰とも出会えぬため、もうあきらめた模様。これこそまさに三日坊主！梅の木同様、シングルライフはまだまだ続きそう…。

多少まじめなことを言わせてもらえば、毎年三月に開催される「相川ひなまつり、涅槃図展」に六年連続で参加。参加初年度に東日本大震災が発生したこともあり涅槃図を掲げること被災者の慰霊を切に願うとともに、これからも回向、供養し続けていこうと思う所存。多くの方が涅槃図展にご来寺いただけたらうれしい限り。できれば若くて、かわいい女性だけ…。(以下自粛)



山門から見た風景



奥が観音堂(本堂)  
手前が通称、本堂(客殿)  
紛らわしい！



無駄にデカイ梅の木